

# 個別支援と集団支援を両立する保育者の技術

～折り紙指導実践を通して～

## Compatibility of Individual and Group Support in Early Childhood Education and Care

宮崎 春菜・野中 弘敏・中野 隆司

Haruna MIYAZAKI・Hirotohi NONAKA・Takashi NAKANO

### 概要

子どもの指導・支援において、とくに経験の浅い保育者にとっては、個別支援と集団支援の両立が、大きな課題となる。一方、経験豊富な保育者の保育においては、集団も個別も曖昧にしない活動が見られ、その多くは子どもたちが落ち着いて、無駄な時間を過ごすことなく活動に取り組んでいる。子どもたちが、落ち着いて意味ある活動にテンポ良く取り組むためには、個と集団の支援の両立が重要である。そこで、本研究は、現場経験の浅い保育学生の実践映像を視聴した、現場経験の豊富な保育者に、個と集団の両立において気になる点や工夫できることなどを討議してもらうことで、熟達した保育者の工夫や技術を明らかにすることを目的とした。その結果、どちらの支援も両立するためには、個別・集団それぞれの支援の工夫も必要であるが、同時に両方の支援が組み合わせられた支援が必要であることが明らかとなった。

### I.目的

子どもの指導・支援において、とくに経験の浅い保育者にとっては、個別支援と集団支援の両立が、大きな課題となる。個別に対応していると、全体の流れがおろそかになって把握できていないことがでてきたり、全体の流れを気にすると、個別の対応が曖昧になってしまったりするなど、個と集団の支援の両立がうまくできず、予想以上に活動時間が長くなってしまったり、予定していた活動までできなかつたりすることがある。現場の保育者、とくに経験豊富な保育者の保育においては、集団も個別も曖昧にしない活動が見られ、その多くは子どもたちが落ち着いて、無駄な時間を過ごすことなく活動に取り組んでいる。子どもたちが、落ち着いて意味ある活動にテンポ良く取り組むためには、個と集団の支援の両立が重要であ

る。

子ども一人ひとりの育ちを把握したり、一人ひとりに合った適切な支援をしたりするために、個別支援は毎日の保育に欠かせないものである。しかし、障害児を対象とした個別支援の研究は数多くあるが、通常の保育での研究はあまりみられない。また、集団生活を基本とした幼稚園や保育園では、同じ時間を友達と共有することにより、人間関係を育むことができる。集団の中で活動するにあたり、保育者の集団支援も必要である。保育所保育指針解説書(2008)では保育の方法として、「子どもの発達について理解し、一人ひとりの子どもの発達過程と個人差に配慮して保育すること、また、子ども相互の関わりを重視し、集団としての成長を促すこと」と述べられている。このように、毎日の保育の中には、個別支援、集団支援がそれぞれで行われているのではなく、個と集団の

両方の支援が一緒に行われているのである。しかしながら、個と集団を両立する保育方法の技術や工夫を明らかにしている研究はほとんど見当たらない。

浅川他(2008)では、保育者の視野、見方に注目して保育者の専門性を確認する研究が行われていた。この研究では、ベテランの幼稚園教員と実習生を比較し、保育者の見ているものや捉えているものから、広く視界を持つこと、個へ対応することの両方が保育者には求められていると考察されている。しかしこの研究では、対象者の目線の位置に小型カメラをつけての調査であり、これは実際の保育現場における調査としては難しいものがある。そこで、本研究では、現場経験の浅い保育学生の実践映像を視聴した、現場経験の豊富な保育者に、個と集団の両立において気になる点や工夫できることなどを討議してもらうことで、熟達した保育者の工夫や技術を明らかにしていきたい。

現場経験の浅い保育学生の実践内容は、全体の流れがある集団支援の部分と個々に発達や得意不得意に違いが出やすい個別支援の部分を持った、折り紙指導を行うこととする。折り紙は、集中力と理解力、根気など、結果が表れやすいことから、子どもの発達やその課題、保育者の力量とその問題点が把握できる教材である(長根 2006)。保育経験の違いから見える工夫や技術から、個別支援と集団支援を両立する保育方法を検討する。

## II.方法

本研究では、現場経験の浅い保育学生の「折り紙指導実践」をビデオ録画し、それを現場経験の豊富な保育者に「視聴」してもらい、気になる点などを「討議」してもらった。

「実践」、「視聴と討議」の方法は以下の通りである。

### (1) 折り紙指導実践

実践者：保育専攻に在籍する2年生

(以下学生T) 1名

時期：平成28年7月4日、5日

方法：折り紙指導は、折り紙の基礎折りを終え、少しずつ発展的な折り方ができるようになった4歳児クラスを対象とする。一日目は、

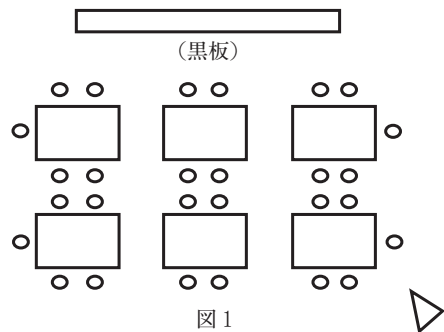
折り紙の導入としてセミの紙芝居を読んだ。二日目は折り紙指導の実践を行う様子を、全体が映るように教室の後ろに設定したビデオに記録した。

### ●実践の流れ(二日目) 活動時間 30分

4歳児28名

6テーブル(1テーブルにつき4~5名)

図1参照 △=カメラ



①活動内容について説明する。

②4色(水色、藤色、黄色、ピンク)の折り紙の中から好きな色を一つ、前の机から選んで座ってもらう。

③大きい折り紙で見本を示しながら、セミを折る。

④サインペンで目をかく。

⑤まとめをして、完成した折り紙を各自の鞆にしまってもらう。

### (2) 視聴及び討議

視聴者：Y幼稚園 4歳児クラス担当の保育者  
(3名：G先生、H先生、K先生)

時期：平成28年7月14日

方法：現場経験の豊富な保育者に、(1)の実践映像を個別支援と集団支援の両立という観点のもと、一度視聴してもらった。その後、もう一度(1)の実践映像を視聴しながら、個別支援と集団支援を両立する保育者の工夫や技術について、気づいた点を自由に討議してもらった。なお、討議内容はボイスレコーダーに録音し、後に書き起こしを行った。

### (3) 調査対象への倫理的配慮

山梨学院短期大学研究倫理規程に則り、調査目的、方法、プライバシーの侵害の防止に配慮したデータの管理について、Y幼稚園園長へ調査依頼とともに通知し、承諾を得た。なお、本研究は山

梨学院短期大学「人の研究に関する研究倫理審査」において承認された（承認番号：2016028）。

### Ⅲ.結果と考察

考察に当たって、実践の映像・音声と保育者の討議の録音をそれぞれ文字化し、実践と保育者のコメントが照合できるように時系列で表にした。その内容を検討したところ、保育者の討議内容がいくつかのテーマに分類できるようであったため、テーマごとに表を区切り、テーマごとに順序も入れ替え、テーマに沿って、保育者の討議を詳しく考察していった。討議のテーマは、大きく「1.

集団支援の工夫」、「2. 個別支援の工夫」、「3. 個別と集団」の3つにまとめられ、さらに1は、「1-①簡単な工程をまとめる」、「1-②待ち時間の工夫」、「1-③発達理解」、「1-④メリハリをもたせる」の4つに、2は、「2-①一人ひとりの育ちを把握する」、「2-②優先順位をつける」の2つに、3は「3-①子どもの声を拾う」、「3-②やることの指示を先にする」、「3-③個人の間違いを集団で共有する」、「3-④折り方説明の工夫」の4つに分類できたので、以下ではこれらのテーマごとに考察し、最後に総合考察を行うことにする。

#### 1. 集団支援の工夫

##### 1-① 簡単な工程をまとめる

※発言の番号は書き起こしをした際の発言の順番を表したものである。

表の左側がTによる実践の内容、右側がそれに対応する保育者の討議である。

下線は重要と思われる発言。

なお、保育者の討議の「A x x」は、自由討議の後、筆者が質問をして答えてもらったものである。

|     |                                                                 |    |                                                                                                                                                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 61  | C：できたー！ ※Cは子ども全体                                                | 7  | G先生：ある程度ね、簡単な工程をまとめといてあげることで、全体の活動時間もこう短縮できるの。そうすると、後半さ、落ち着きがなくなってくると集中力が切れてくるじゃない。だからそここのところまでをちょっと見越しておいて、全体の流れの中の今このどこの部分は大事にして、どこの部分はさらっと流すのかみたいなどころなんだけど。丁寧ですごく良いだけだね。                                             |
| 62  | T：はやーい。                                                         |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 63  | C：もうできちゃったよー。                                                   |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 64  | T：はやいね。<br>(全体をまわりながら確認する)                                      |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 65  | C：(ざわざわしている)                                                    |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 66  | T：さあみんな、二つ折りできたかな？見せてください。                                      |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 67  | C：できたー！(みんな上の方に折り紙を持って見せる)                                      |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 68  | T：みんな完璧です。                                                      |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 240 | T：しまったら席についてください。<br>ツインペンはロッカーに、セミは鞆の中だよ。<br>はい、次たんぼぼチームさんどうぞ。 | 32 | G先生：これさ全体で何分くらいかかった？                                                                                                                                                                                                    |
| 241 | C：(たんぼぼチームさんしまいにいく)                                             | 33 | 学生T：30分です。                                                                                                                                                                                                              |
| 242 | Mくん：はやいー？(早く片付けて戻ってくる)                                          | 34 | G先生：そうだよ。え。<br><u>やっぱり15分から20分くらいに収まるくらいが、わさわさしてこないしするから、じゃあどこって言ったら、さっき言ったようなところで、工程をなるべくまとめるとか、あとH先生が言ったように<sup>(注1)</sup>、全員に、もちろん個別指導はするんだけど、何人か同じ間違いしているなと思ったら、それも全体に投げかけてあげると、あと丁寧に一人ひとりのとこ回らなくても、気がつくっていうことが</u> |
| 243 | T：はやーい。もう席に座ってる。はやーい。                                           |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 244 | C：(ざわざわしている)                                                    |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 245 | T：ばらチームさん全員座れたかな？                                               |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 246 | Nくん：まだー。                                                        |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 247 | C：(座ってはいるがざわざわしている)                                             |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 248 | T：ばらチームさん全員座れた？                                                 |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 249 | T：たんぼぼチームさん急いでくださーい。                                            |    |                                                                                                                                                                                                                         |
| 250 | T：さあ、静かにこっち前を向ける人がいるかな？                                         |    |                                                                                                                                                                                                                         |

注1 保護者の討議30番 (p.140) を指す。

|     |                                     |    |                                                                                                                                           |
|-----|-------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 251 | T：さあ、お話やめて前を向いてください。<br>(全体を見渡す)    | 35 | あるから、何人かそういう間違いしているなど思ったときに、こう全体に知らせてあげるといいよね。<br>G先生：そうしていくと、たぶん早くできちゃった子の待時間も短くなってくるし、全体の活動時間も短くなってから、ある程度集中力が持続した状態で、最後までいけるんじゃないかなあと。 |
| 252 | T：Mちゃんはやい。Nちゃんもはやい。                 |    |                                                                                                                                           |
| 253 | C：(少し静かになりはじめる)<br>(じゃんけんをして遊ぶ子がいる) |    |                                                                                                                                           |
| 254 | T：Eちゃんたち大丈夫かな？                      |    |                                                                                                                                           |

### <考察>

実践の中でTは、ひと折りごとに説明していった。しかし、すべての工程を丁寧に説明したことで、活動時間は長くなり、後半になると子どもの集中力が続かない様子が見られた。子どもたちの集中できる時間は15分から20分が適当だと保育者は指摘している。しかし、この実践の全体の活動

時間は30分だった。簡単な工程をまとめて説明して折り進めることで、活動時間を減らすことができる。子どもたちが落ち着いていないと、保育者の指示も通りにくい。子どもたちが落ち着いた状態で活動するために、簡単な工程をまとめることは有効であると考える。

### 1-② 待ち時間の工夫

|     |                                                    |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|----------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 106 | C：(できた子からわさわさし始め、隣の子などと見せ合いながら、がやがやし始める)           | 16 | G先生：結局ひとつひとつの工程でも、できたあとやっぱり待ち時間があるじゃない。そこでうるさくなっちゃうとか、飽きてきちゃうということもなくすために、三角一つ折りしたときとか、「三角一つ折りおぼけのできあがり」って言って教えてきてるから <u>やったらおぼけして待ってる</u> とか。ちょっと待ち時間が楽しくなる工夫もね。                                                                                                     |
| 107 | T：さあみんな。つのは折れましたか？見せてください。                         |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 108 | C：できたー！<br>(できた折り紙を頭の上ののせて見せる)                     |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 109 | T：はい。では、次に行きます。                                    |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 169 | Mくん：我々は、宇宙人だー。<br>(宇宙人の声真似を始める)<br>(教室中がざわざわしている。) | 25 | K先生：宇宙人がいる。<br>G先生：ああやっただから個別指導しながらどうしてもうるさくなってきちゃったなどと思ったら例えば、「 <u>名前をつけてあげよう</u> 」とかね。「ちょっと後で聞くから考えといて、ないしょだよ」とかね、「 <u>同じ名前になったらいけないから黙ってて誰にも言わないで考えてて</u> 」とかいうと、けっこう静かになって一所懸命考えたりとか。「女の子かな？男の子かな？」とかちょっと想像を膨らませて楽しんで待てるようにみたいなどころをすると、集団もこう仕分けしながらそれぞれの子にも関わられる。 |
| 170 | T：(机ごとにできているか確認する)                                 | 26 |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 171 | Mちゃん：Eちゃんに教えてあげたよ。                                 |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 172 | T：教えてくれたの？ありがとう！                                   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                       |

<考察>

Tの実践では、折り終わった後の待ち時間から、ざわざわし始める子どもが多く見られた。紙を折る速さには個人差があり、難しい折り方になるほど、個人差は大きくなる。早く折れた子どもたちは、友達同士でできたもの見せ合ったり、違う話をし始めたりして、個別に見てまわっている待ち時間を過ごしていた。個人差が大きくなるほど、待ち時間も長くなり、集中力は切れ、飽きはじめる。話す声は次第に大きくなり、教室中がざわざわしてしまう。そうした時間をなくすために、待

ち時間の工夫が必要となる。保育者の討議の中に見られるように、「できたら頭に乗せておぼけを作って待つ」や「名前をつけて待つ」など、待っている間の行動を明確にすることで、子どもたちが飽きないようにする工夫ができる。また、「名前をつけるときは他の人と同じにならないように黙って考えて」というように、自然と話をしないような流れを作る工夫もできる。待ち時間も楽しめる状況にすることで、ざわざわとした雰囲気を作らずに、活動を進められると考える。

1-③ 発達理解

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>40 T：はやーい！<br/>（全体を見まわる）<br/>41 C：きれいにできた。<br/>42 T：きれいにできてるね。<br/>43 C：おぼけだー。（三角を頭に乗せて）<br/>44 T：三角見せてください。みんな折れましたか？<br/>45 C：はい。（上に高く上げて見せる）<br/>46 T：わあ。みんな上手だね。<br/>47 C：山ってこんな感じだよ。<br/>おぼけだよー。<br/>48 T：（できていない子の援助をする）<br/>はい。次！こっち向いてください。<br/>49 C：はい！<br/>50 T：前の人は首だけでもいいよ。<br/>51 C：おぼけだぞー。</p> | <p>5 H先生：そうそう。できるかなと思うところはそこまで一緒に説明してしまって、そこまでできなかった子をフォローするという方法の方がいいかな。<u>何度も三角一つ折りして、次二つ折り求めるのって、それもう分かっているよってところで落ち着きがなくなっちゃったりだとか私語が増えたりとかするから、子どもたちがここまでできるかなっていう設定を想像の中でしっかりと理解を先生が先にして、だいたいここまでできるだろうってやってって良くない子に指導、個別の支援をしていった方がいいかな。</u><br/>三角一つ折りで「できたー！」ってやってるのは赤組さん（年少）だと思う。</p> |
| <p>255 C：（徐々に静かになりはじめる）<br/>（最後の子が戻ってくる）<br/>256 T：さあ全員座れました。Yくんいいかな？<br/>257 T：はいでは、昨日はセミの紙芝居読んで、今日はセミの折り紙をしました。<br/>みなさん、ありがとうございました。<br/>258 C：ありがとうございました。</p>                                                                                                                                              | <p>36 H：結局、集団支援っていうのは、なんかこう4歳児ってこのくらいできるかなとか、こんな姿なんではないかなっていう<u>予想を立てる先生の発達理解度みたいなのが必要だし、技術の高さにも比例してくると思うので、そのへんをもうちょっと自分の中でまとめて、「このくらいできる！ではないか？」</u>って思って保育の方をしていくとか、自分がやってみて難しいと思ったところは念入りにそこは<u>ちょっと時間を取ろうとか、時間の配分を考えていくの大事</u>だと思う。</p>                                                    |

<考察>

1-①でも見られたように、工程をまとめるためには、子どもたちの発達を保育者が理解している必要がある。実践でTは、子どもたちがどこま

でできるのかを予想しておらず、ひとつひとつの工程を丁寧に説明していった。しかし、実際の子どもたちは、三角一つ折りなどの基礎折りは既にできていて、説明がいらないほどに、すぐに完成



していた。もうすでに分かっていることを、ひとつひとつ丁寧にやり直すというのは、子どもたちの落ち着きがなくなったり、私語が増えたりすると保育者は指摘している。4歳児はこの時期どこまでできるのか、日々の保育の様子と年齢別の発

達を考えて、予想できることが必要になると考える。すでにやったことのある、子どもたちがスムーズにできるところに時間をかけないように、子どもたちの発達をよく理解して予想を立てることができれば、上手に時間配分することにつながる。

#### 1-④ メリハリをもたせる

|     |                                                                              |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28  | T：今日先生はこの大きい折り紙で折りたいと思います。                                                   | 3   | K先生：前を向きましょうとか導入が始まってまだ騒いでいる人がいたら、私だったら話さないで待つかね。私だったらね。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 29  | C：わあ。                                                                        |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 75  | T：そしたら、次。ちょっと難しいから見てて。                                                       | 8   | K先生：あとね、ちょっと難しいってそんなに難しくないところなのに先生が難しいって言ってしまうと子どもたちも「難しいんだ」と思ってしまうから、 <u>本当に難しいって言うところ</u> で使った方が <i>良い</i> と思う。私はあまり使わないと思う。難しいって。                                                                                                                                                                                                   |
| 76  | C：たまごに見える。                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 77  | T：ここのとんがりさん。今度は上のとんがりさんに、ピピビピー。なかよくくっつけて、アイロンかけます。(指しながら折る)これ、こっちの反対側もピピビピー。 |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 78  | Yくん：あ！宝石だー。                                                                  |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 79  | Kくん：そうだよ、宝石。宝石？                                                              |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 101 | C：できたー。                                                                      | 14  | G先生：これやりながら見てない子いるけど、見てないなと思ったらちょっと声かけてあげるといいね。                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 102 | T：つのはね、ピンと飛び出るといいな。(できた子を見ながら)                                               | 15  | H先生：私もここにメモしたんだけど、 <u>なんか集団の中で誰がどこを見ているのか必ず確認した方がいい</u> ねって。そう、全員がちゃんと見ているかなって確認をして、やっぱそこは気になったとこかな。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 103 | Nくん：こうだよ？チューリップみたい！                                                          |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 104 | T：そうだね。チューリップみたいになるかな？                                                       |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 105 | T：(できていない子を手伝う)                                                              | A10 | G：絶対、ここよく間違えるわっていう微妙な角度とかいうときは、ここは絶対聞いてほしいってところでは必ず先に子どもにそれを伝えるんだよね。「ここ大事、今からとっても大事だからよく見てて、よく聞いてて、お椅子前にして！」ってみんなちゃんと前になっているか確認をする。なっていないと「一回しか言わないよ」とか言って。「すごい大事なんだよ。ここねよく間違えるんだ。間違えるとセミが飛べなくなってかわいそうと思って言っています。」とか言いながら、子どもがここは見なきゃいけないという雰囲気を作っておいて、「ここ！ぴったりじゃないの。つの！こっちもつの！」とかって言うと、子どもがチューリップ～とか言ったら、「そうチューリップが咲いたみたいなの。チューリップが咲い |

|  |  |                                                                                                                                                        |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  | たみたいになっていないとダメなのよ。ここ大事。」とか言って、「さあやってみよう。」ってこう、 <u>メリハリをつけてあげる</u> 。さっきのこういう簡単なところなら、絶対に見てってこともなく。さらっというっていいけど、自分が先に見る、聞く、って言ったときにはしっかりと見る、聞くってさせた方がいい。 |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

<考察>

子どもたちが見ていなかったり集中がまばらになってきたりしたとき、実践でTは、一言声をかけるか、さらっ次次の説明に行ってしまう。それでは、全員がしっかりと聞くという環境は整えられず、全部の工程がメリハリなく何となく過ぎてしまう。特に難しい工程の際には、「見るときは見る、聞くときは聞く」というように、しっかりと注目をさせてから話す必要がある。また、活動の中で「難しい」という言葉を使う場所をよ

く考えて、乱用しすぎないようにすることも大切である。活動の中で難しいポイントの一つにして、ここぞという場所で「難しい」という言葉を使うことにより、緊張感を高めて効果的に注目させることができると推測する。簡単なところと難しいところ、見るときと作業するときというように、あやふやなままに進まずに、活動にメリハリをもたせることで、子どもたちの集中力も変わってくると考える。

2. 個別支援の工夫

2-① 一人ひとりの育ちを把握する

|                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 113<br>114<br>115<br>116<br>117<br>118<br>119<br>120<br>121<br>122<br>123<br>124 | C：見てー！できたー！<br>C：できたかなー。<br>（友達と見せ合いっこしたり、できたもので遊んだりしている。）<br>（ざわざわとしている。）<br>T：（できていない子を手伝う。）<br>T：（一人ひとり見ながら）<br>あー、上手！白色のお山だけ作ってね。<br>T：さあ次にいきまーす。（前に戻る）<br>C：（前を見る。）<br>T：次、またお山を作っていきます。<br>T：でも、このお山。（見本の折り紙で折りながら）またピピピーって白のお山隠しちゃたらブーです。白のお山がちょっと見えるくらいの下に、色のお山を作ってみてください。<br>C：できたー！<br>C：もうできたー。<br>T：早いねー。<br>T：ほんとだー。早いね。 | 19 | G先生：でね、ちょうどうつってないんだけど、見てた時にあの、Tくんかなりできてなかったの。それをけっこうYちゃんとかが手伝ってあげてたと思うんだよね。で、Hちゃんとかもうつってないけど、ちょいちょいMちゃんが折ってくれたりして。そこも一応確認しとくといいよね。「先生分らない」って言ってこないけど分かっていない子、「できない」って言ってこないけどできていない子。で、その子に対してきちんと教えてあげてる子っていうのも、どっちも <u>引張ってあげなきゃいけない援助とそこを認めて伸ばしてあげる援助とそこ二つ入ってくる</u> じゃない。教えてあげてる子はそのことを褒めてあげてほしいし、あげたいし、やってもらっちゃっている子はさ、自分でやることの喜びを味わえるように関わらなきゃいけない。 |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

<考察>

保育者は、個別に回って援助する中で、「分か

らない」と言ってこないけどできていない子、その子にきちんと教えてあげている子など、できて

いるかできていないかの結果だけではなく、できるまでの経緯や友達同士の関わりを見ることを工夫の一つとして挙げている。子どもたちの一人ひとりの様子を細かく見ることで、教えることができていない子は、褒めて認めて伸ばす援助ができた、教えてもらっている子は、自分でできるよう

に、分からないときは分からないと言えるように、引っ張ってあげる援助ができたりするなど、一人ひとりに合った必要な援助が見えてくる。一人ひとりの育ちを量だけで判断していくのではなく、関わりの中で見える育ちも見逃さないようにすることが必要である。

## 2-② 優先順位をつける

|     |                                                |    |                                                                                                                                                                         |
|-----|------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 173 | T：さあみんなできたかな？こっちに見せてください。                      | 27 | G先生：もちろんああやって先生が全部回って確認するんだけど、さっき言った分からない子、でもその近くに教えてくれる子がいたりしたときっていうのは、やっぱり分からない個別指導にまわっていく優先順位としては、誰も助けがいないところ、助けがいるけどできないところ、みたいなその <u>順位をなんとなく思っている</u> 。回っていくときにね。 |
| 174 | C：（自分のを高くあげて見せる）<br>（セミの鳴き声をまだ続けていて見えていない子もいる） |    |                                                                                                                                                                         |
| 175 | T：今、折ったのをくるんってひっくり返すと。（見本の折り紙をひっくり返しながらか）      |    |                                                                                                                                                                         |
| 176 | Kくん：セミー――！                                     |    |                                                                                                                                                                         |

### <考察>

実践の中でTは、端から順番にできているかを見てまわっていた。そのため、一人ひとり見ていくのに時間がかかってしまい、1-②のように待ち時間を長くしてしまっていた。そこで、個別指導していく際には、優先順位をつけることが工夫の一つとして指摘されている。2-①でみたよう

に、できていないものの助けが周りにいるところや教えてあげられる子が誰もいないところなどを把握して、どこを最初に回ってみていけばいいのか優先順位をつけることで、保育者の援助が絶対に必要なところから回ることができる。そうすることで、無駄なく個別援助をすることになり、待ち時間の減少につなげることができる。考える。

## 3. 個別と集団

### 3-① 子どもの声を拾う

|    |                                           |    |                                                                                                                         |
|----|-------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 78 | Yくん：あ！宝石だー。                               |    |                                                                                                                         |
| 79 | Kくん：そうだよ、宝石。宝石？                           |    |                                                                                                                         |
| 80 | T：上の三角頭にくっつけてしっかりアイロンかけます。はい、やってみよう。      |    |                                                                                                                         |
| 81 | C：できたー！                                   |    |                                                                                                                         |
| 82 | Kくん：ねえ、Kも見えてー。ねえ上手でしょ。（先生の方に折ったものを見せる）    |    |                                                                                                                         |
| 83 | T：あ、上手！Kくん。<br>（できていない子のところに行き、後ろから一緒に折る） | 11 | G先生：そして今Yくんが「宝石だ〜」って言ったけど、子どもってこの形って宝石っていうと分かりやすいのかなとかそういうところで拾って、「ほんただね。宝石みたいだね。ほら！宝石みたいな形だよ。やってみよう。」ってそこまでねまとめちゃうと思う。 |
| 84 | Yくん：できたー。                                 |    |                                                                                                                         |
| 85 | Kくん：ねえ、こうやると四角になるよ。（少し回転させて、四角になるところを見せる） |    |                                                                                                                         |



<考察>

Yくんが「宝石だー。」と言ったことに対して、Tは気にも留めず次の説明へと移っている。しかしこれに対し、子どもたちにとって分かりやすい言葉かもしれないと判断して、子どもの声を拾った方が良いと保育者は指摘している。子どもたちは、見たもの聞いたものに対して、様々な感想を持つ。子どもたちにとって分かりやすく理解しや

すい言葉も様々である。よって、子どもたちから出た声(言葉)というのは、子どもたちが知っている言葉であり、子どもたちにとって理解できる言葉だと言える。保育者側が一方向的に話すだけではなく、子どもたちの声を聞いて拾いながら話を進めることで、より分かりやすくスムーズな活動になるのではないかと考える。

3-② やることの指示を先にする

|                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>22<br/>23<br/>24<br/>25<br/>26<br/>27</p>                                       | <p>C：はい！<br/>(前に椅子ごと向きなおす)<br/>C：青！黄色取ったー！<br/>T：みんなすごいいろんな色取ってるね。じゃあ、先生は今日、みんなに見やすいように(大きい折り紙を取り出す)<br/>C：なにあれ？<br/>T：じゃじゃじゃじゃーん！こんな大きい折り紙を持ってきました。<br/>C：でっかい。</p>                                                                                                                 | <p>2<br/>G先生：ちょっとしたことなんだけど、「折り紙は机に置いておきましょう」とか一つちゃんと言ってあげると子どもって前向いてするんだけど、<u>手に持ってるから集中できないとか話を聞かないってところはあるので</u>、「折り紙は今触りません。」とかそういうのを私たちは声かけがそこに一つ入るなど思う。見ることに集中できるように。</p> |
| <p>185<br/>186<br/>187<br/>188<br/>189<br/>190<br/>191<br/>192<br/>193<br/>194</p> | <p>T：はい、では、ばらチームさんどうぞ。<br/>C：(ばらチームさんが取りに行く)<br/>T：走らないでいくよ。走らないで。<br/>Kくん：先生書いてもいーい？<br/>T：ちょっと待っててね。<br/>Kくん：ダメだってまだ。<br/>T：じゃあ、たんぼぼチームさんは黒のツインペン出しといて。<br/>では、ばらチームさんも黒のツインペン出してね。<br/>Kくん：先生まだだめなの？<br/>T：うん、まだ書かないで。<br/>T：はいじゃあこっちを向いてください。手触らない。今手触らないでこっち見るよ。(静かになるのを待つ)</p> | <p>29<br/>K先生：指示出した後に「走らないでねー」とか後から言うけど、「歩いて持ちに行ってきて」とか先にしてほしい<u>行動を言葉かけの中に入れておくとスムーズかもね</u>。どうしても走ってしまう子がいるから、後から歩いてねってことは伝えるんだけど。指示の後に言うんじゃないくて、指示の前に行った方が良いと思う。</p>         |

<考察>

実践の中でTは、子どもたちの行動の前に声かけはなく、行動した後に「走らないで」などの注意をしていた。行動してからの注意も必要だが、先にしてほしい行動を伝える方が、スムーズに動けると保育者は指摘している。また、やってほし

い行動が自然としやすいように、「折り紙は今触りません」などと一言声をかけることで、集中できない要因を除去しておくことも有効である。行動しやすい環境や状況を事前に整えておくことで、子どもへの注意も減り、テンポ良く活動を進めることができるかと考える。

## 3-③ 個人の間違いを集団で共有する

|                                                                                                                                                                                                                                                                              |           |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>209 Kくん：先生、口書いてもいい？</p> <p>210 Yくん：先生ー！口書いていい？</p> <p>211 T：いいよ。<br/>(みんなが目を書けたのを確認して)</p> <p>212 T：はいでは、ペンをふたをしめて、袋の中に入れてください。<br/>さあ、黒いペンを袋の中に入れてください。<br/>袋にしまえた？</p> <p>213 C：(まだ書いている子がいる)</p> <p>214 T：さあペンを袋にしまってください。もうおしまいです。</p> <p>215 T：さあみんな出来上がったのみせてー？</p> | <p>30</p> | <p>H先生：なんか、個別の子にこの子もうちょっとこうの方がいいなって思いながら回るじゃない？それはもしかしたら他の子もそういう勘違いとか間違いをしている場合があるから、ちょっとなんか、その子を目立たせるとかそういうことではなくて、もしそういうことになっているときは、ちょっと全体にも、<u>他の一人ひとりの気づきがみんなの気づきじゃないけど、そうやっていくといいかなって</u>思って。個別に回ってる時の言葉かけがあんまりこう聞こえない感じがするから。<u>個別に回ってるからって個別だけを育てているわけではないので。</u></p> |
| <p>241 C：(たんぼぼチームさんしまいにいく)</p> <p>242 Mくん：はやーい？(早く片付けて戻ってくる)</p> <p>243 T：はやーい。もう席に座ってる。はやーい。</p> <p>244 C：(ざわざわしている)</p> <p>245 T：ばらチームさん全員座れたかな？</p> <p>246 Nくん：まだー。</p> <p>247 C：(座ってはいるがざわざわしている)</p> <p>248 T：ばらチームさん全員座れた？</p> <p>249 T：たんぼぼチームさん急いでくださーい。</p>         | <p>34</p> | <p>G先生：そうだよね。やっぱり15分から20分くらいに収まるくらいが、わざわざこないしするから、じゃあどっかって言ったら、さっき言ったようなところで、工程をなるべくまとめるとか、あとH先生が言ったように、全員に、もちろん個別指導はするんだけど、何人か同じ間違いしているなどと思ったら、それも全体に投げかけてあげると、あと丁寧に一人ひとりのとこ回らなくても、気がつくっていうことがあるから、<u>何人かそういう間違いしているなどと思ったときに、こう全体に知らせてあげるといいよね。</u></p>                    |

## &lt;考察&gt;

実践の中でTは、個別に指導して回っているときは、個別だけの関わりに留まっていた。また、同じ間違いをしている子どもがいても、そのたびに丁寧に指導していた。しかし、一人の気づきはみんなの気づきになると保育者は指摘している。一つの間違いや気づきを個人で留めるのではなく、全体にも呼びかけることで、同じ間違いをしてい

る子が気づき、自分で直すことができる。指導する側も同じ間違いで何度も指導することがなくなり、一人にかかる時間を減らすことができる。個人の間違いや気づきを集団に投げかけて共有することで、子どもたちが自ら気づいて直したり、考えたりすることができ、指導の時間も短縮することができるのではないかと考える。

## 3-④ 折り方説明の工夫

|                                                                                                                                                   |           |                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>148 T：これでいい？(折りが足りない様子を見せながら)</p> <p>149 C：だめー。だめー。</p> <p>150 T：これはー？(線を越えてしまっている様子を見せながら)</p> <p>151 C：だめー。</p> <p>152 T：これはー？(正解を見せながら)</p> | <p>21</p> | <p>H先生：折る場所はもちろんなんだけど、折った時にどこをきちっと押さえれば形がきれいにできるかとか、そういう<u>仕上げポイント</u>みたいなどを教えとくと、どんどん厚くなってくるからさ。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|  |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  | <p>A3 H先生：せみの形のちょうど真ん中おへそまでとか、なんかあるといいなとは思ったかな。ここって自分たちで指をさせる真ん中とか、何か折り線がついてる少し上とか。ダメっていうことを言って悪いってことじゃないですよ。分かりやすいから。ここ！って子どもが分かってから進めた方がいいかな。ここ！って指さして、パーッと見て「そう、そこそこ！」みたいな。</p> <p>A4 G先生：あと先生必ずあそこで貼ったまま折っていたけれども、けっこう私たちってあそこに貼るんだけど、アイロンかけまーすとか言ってアイロンかけたよって言ってできた形を、必ず子どもたちにもこっちの子にも見えるようにこの形になりますというように見せる。例えばさっき言ったここってというのが分かりづらいときとか絶対にこのまま貼っちゃわないで、子どもに見せて、「ここ！見つけて！どこだと思う？じゃあ自分の折り紙で見つけてみて」という持っていきかたとかね。</p> <p>A5 H先生：そうね。この集団の前に立っているんだけど、ただ個別支援をこう「Mちゃんこここうじゃなくて」というのが個別支援じゃなくて、<u>前に立って集団の前に立っている中でも個に対する投げかけ、個々に対する言葉かけだったり、まさに今のがそうだと思う。</u></p> |
|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### <考察>

Tは、折る位置が分かりづらいような難しいところでは、故意にダメな例を何個か出して、子どもたちに正しい場所が理解できるような工夫をしていた。子どもたちの半分くらいが理解してやってくれていたが、半分の子はよく分かっておらず、「先生分からない」と何度もTに助けを求め、自分からは挑戦していないようだった。理解できていない子に教えるのは、時間がかかる。そのため、できていない子一人ひとりに丁寧に関わっていると、自然と待ち時間も増えてしまい、集中力も切れてしまう。集団支援の中で、みんなが理解しや

すように、子どもたち自身が折る場所を指でさすなどの工夫ができると保育者は指摘している。また、完成の形をみんなに見やすいように黒板から外して見せて回ったり、折る場所だけではなく、押さえる場所や折る強さなども伝えたりすることで、より丁寧なきれいな折り紙を完成させることができる。ただ折って完成ではなく、丁寧にきれいに完成できるかどうか子どもたちへの指導のポイントとなると考える。3-③では、個人から集団へ広げたが、ここでは集団に立ちながらも、個人への投げかけをすることが工夫の一つとして考えられる。

#### IV. 総合考察

本研究では、現場経験の浅い保育学生の実践を見た熟達した保育者の討議から、個別支援と集団支援を両立する保育者の技術を考察してきた。討議の中から出てきた工夫や技術を見ると、大きく3つに分類することができた。

1つ目は、集団を主とした支援の工夫である。活動の流れや時間など、全体を考えた工夫がみられた。子どもたちの活動がテンポよく行われるには、子どもたちの集中力がどこまで続くかが問題となる。そのためには、活動する子どもたちの発達を考え、何分くらいの活動が適当か、どれくらいの難易度のものが適当か考える必要がある。子どもの発達に応じた時間と難易度で活動することにより、その活動は比較的スムーズなものとなる。子どもたちに合った適当な時間で活動を終えるために、集中力を保つための工夫が多くみられた。まず、簡単な工程はまとめて、難しいところまたはポイントとなるところに時間をかけられるように時間配分をすることが大切となる。集中力がなくなった状態では、子どもたちの落ち着きはなくなり、保育者の指示も通りにくい。丁寧に1つずつ支援していくことも必要だが、その分時間もかかってしまう。集中力が保たれた状態で活動を終えるために、活動全体の時間配分を見直すことが必要となる。次に、待ち時間をどう過ごすか工夫することが大切となる。活動の中で個別支援をしていると、個人差からどうしても子ども一人ひとりの待ち時間ができてしまう。その待ち時間は次第に、活動に飽きて集中力を切らせる原因となる。その待ち時間が楽しくなるような活動を新たに加えることで、飽きずに集中力を保つことができるのである。

2つ目は、個別を主とした支援の工夫である。全体の流れの中で、どれだけ個人の育ちを把握できるかの工夫が多くみられた。毎日の保育の中で、子どもたちの一人ひとりの育ちをみていくことは大事なことである。折り紙が上手に折れるようになったとか、話を聞いて理解ができるようになったという、見て回ることによって確認できる育ちを個別支援ではみることができる。また、さらに注意深くみていると、教えてあげている子、教えてもらっ

ている子など、人間関係や自己表現の育ちもみることができる。そのように個人の育ちを把握すると、一人ひとりに適当な支援や評価をすることができる。さらに、個別支援をするにあたって、優先順位をつけることができ、最も支援を必要としている子から回ることができ、効果的に時間を使うことができるのである。

3つ目は、集団と個別の両方の性質を持った支援の工夫である。集団支援から個別支援へと投げかけることや、個別支援を集団支援に広げることなど、言葉かけを通してどちらの支援も行っていた工夫が多くみられた。保育者の言葉かけは、幼稚園・保育園での子どもたちの生活の多くを支えている。保育者からの一つ一つの言葉かけによって、人間関係を築いたり、生活習慣を身につけたり、情緒の安定を図ったりしている。そのため、どんな言葉かけをどういうタイミングで行うかが重要となってくる。まず、集団に対して話をしているときでも、個別の意見を聞くことが大切となる。保育者が代弁することによって、子どもにとって分かりやすい言葉で伝えることができたり、他の子どもの意見を聞くことができたりする。次に、やって欲しい行動の前に注意の言葉かけをすることが大切である。前もって子どもに伝えておくことで、自然にその行動に移ることができ、子どもたち自身も活動に見通しをもてる。そして、個別の気づきや間違いを、集団にも共有することが大切である。集団で活動していると、同じ間違いをする子どもが出てくる。個別に回った際に、丁寧に一人ずつ指導していくこともできる。しかし、同じ間違いを全体で共有することができれば、指導は一回で終わられる。他の子どもたちが自分自身の行動を見直して、同じ間違いに気づくこともできるのである。他にも、折り紙指導に関しては、折り方を説明するときに、子どもたちが分かりやすいような工夫をすることが大切である。活動をする際、分からないときに誰かに聞けるということも大事であるが、聞くことを優先して、自分で考えようとしなくなってしまうのは望ましくない。説明した後に個別支援はしていくが、個別支援を待つ間に自分で試行錯誤できるような姿が、望ましいと考える。そのためには、集団で説明しているときに、難しいところやポイントとなるところ

は、全員がある程度理解できるように、注目させたり子どもたち自身に指をさしてもらったりして、集団で説明しながらも個別に見渡して投げかけることが必要である。少しの理解があれば、自分でもやってみようという意欲につなげることができる。

本研究から、個別支援と集団支援を両立する保育者の工夫や技術が明らかになった。どちらの支援も両立するためには、それぞれの支援の工夫も必要であるが、同時に両方の支援が合わさった支援が必要であることが分かった。個と集団の要素が入った支援が、それぞれの支援の橋渡しとなり、個別支援と集団支援の両立につながっているのである。

子どもたちの支援は、その時々で変わってくる。そのため、支援する子どもや周りの環境や状況を知っていないと、その時々に応じた支援はできない。過去の経験や事例があると、より支援の方法の幅は広がる。日々の保育の中で子どもを理解し、試行錯誤しながら様々な支援を展開していくことで、また新たな支援の方法を見出すことができると考える。よって、熟達した保育者は子どもたちに関わる時間が長い分、個別支援と集団支援の両立ができているのである。今回明らかになった工夫や技術は、折り紙指導の例に関わらず、他の活動においても共通するものであると考える。

個別支援と集団支援を両立することは、子どもたちの活動を落ち着いた無駄のない、意味ある活動にするために必要である。集団を相手に指導する場合において、誰もが考えていかなければならない課題だと思われる。今後は、実際の保育現場の中での実践的研究をさらに進めていく必要があるだろう。

#### <引用・参考文献>

- ・浅川繭子・泉井みずき・加藤麻里恵・中澤潤 (2008). エキスパート幼稚園教員の視点分析から見た保育者の専門性：実習生との比較 千葉大学教育学部研究紀要, 56, 105 - 110.
- ・厚生労働省 (2008). 保育所保育指針解説書, 第1章 総則.
- ・長根利紀代 (2006). 保育実践における子どもの発達と保育者の能力についての一考察—折り紙「柿」を通して— 名古屋柳城短期大学研究紀要, 26, 107 - 123.

